

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果概要

上島町立弓削小学校

1 調査の概要

- (1) 調査実施日：令和7年4月17日（木）、23日（水）
- (2) 調査対象：小学校第6学年
- (3) 調査内容：17日：教科に関する調査（国語、算数、理科）
23日：生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査



2 教科に関する調査の結果

- 国語科はほとんどの領域が全国平均を下回っている。特に、「書く内容を明確にし、文章の構成を考える問題」「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」「文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題」「目的に応じて、必要な情報を見付ける問題」が全国平均正答率を大きく下回っている。
- 算数科は概ね全国平均と同程度である。しかし、「棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題」「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題」「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える問題」「伴って変わる二つの数量に関係に着目し、必要な数量を見出す問題」が全国平均正答率を大きく下回っている。
- 理科は概ね全国平均と同程度である。「エネルギー」を柱とする領域では、全国平均を大幅に上回っているが、それ以外の領域「粒子」「生命」「地球」は、やや下回っている。問題形式では、記述式の問題が全校平均を大きく下回っている。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

- 「自分にはよいところがあると思う」「人が困っているときは、進んで助ける」と回答した児童は、全国平均より多い。
- タブレットなどのICT機器を活用できているかの質問に対して、「分からないことがあったらすぐ調べる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」については、ほぼ全員が肯定的に解答している。
- 「毎日同じくらいの時間に寝ている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と答えた児童は、全国平均に比べて低い。

4 指導改善のポイント

- ◎ 児童一人一人の実態や課題を的確に捉えた支援を実現するために、「むげんタイム」の時間を有効に活用し、基礎的な学力の定着に向けた取組を学校全体で行う。
- ◎ プリント教材やデジタル学習ツールを積極的に取り入れ、読解力の向上を図るとともに、記述式問題に触れる機会を増やすことで、思考力・表現力の育成を目指す。
- ◎ 授業の中に書く活動を計画的に取り入れたり、日々の作文指導等を継続したりすることによって、書く経験を多く積ませ、文章を書く経験を増やす。
- ◎ 児童の思考がより深まり、視野が広がるよう、デジタル教材を含む多様な学習資料を場面に応じて効果的に活用する。

※ なお、本調査結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面である。